

今、私たちができること

静岡市内中学校

池村さん

SDGsと聞くと、大体の人が「知っている」と答えるだろう。しかし、SDGsに積極的に取り組んでいるか、と聞かれたら、みなさんはどう答えるだろうか。

そもそもSDGsとは何だろうか。SDGsとは、二〇三〇年までによりよい世界を目指す国際目標のことだ。持続可能な社会を実現するために、十七の目標が定められている。

私の家庭では、主に食事にSDGsを取り入れている。例えば、消費期限までに使いきる、野菜の皮も料理に使うなどしている。中でも、お肉の代わりに「大豆ミート」を使っている。大豆ミートの良いところは、そもそも動物の命をなくさなくて良いこと、お肉に比べてヘルシーなこと、食中毒の危険がないこと、二酸化炭素が減ること、たんぱく質がたくさん摂れて健康にいいこと、などがある。私も大豆ミートでハンバーグを作ったとき、少し失敗してしまっただけで、普通のお肉のハンバーグに比べて中まで火が通っているかなど、心配する必要もないと思う。そして、一番の大豆ミートの良いところは、お肉に

似ていることである。「これ、大豆ミートだよ。」と言われないと分からないくらい、見た目も味も似ている。だからこそ、もっともって大豆ミートを世界に広めていくべきだと思う。

私が次に気をつけていることは、ペットボトルだ。家ではほぼ毎日炭酸水を飲んでいて、ペットボトルを毎日捨てることになる。私の中学校でも妹の小学校でも、ペットボトルキャップを回収している。そのため、家で捨てる前にキャップを洗って学校に持って行くようにしている。インターネットで調べたところ、ペットボトルキャップ二キロ（約千個）で一人分のフクチンになるそうだ。また、ポリ袋にも利用されている。このペットボトルキャップが少しでも世界のためになるなら、やろう！という人が増えるのではないだろうか。そこで、私たちが生きていく未来のために今、学校で取り組んでほしいことを考えた。それは、週に一回、一時間だけSDGsの十七の目標の中で一つを取り上げ、私たちに何ができるのかを生徒たちだけで考え、一週間実行してみるというものである。一ヶ月だと逆に長すぎて忘れてしまうけど、一週間ならみんなまで意識し合うことができると思う。しかも生徒だけで話し合うことによりクラスの仲も深まるし、たくさん良い案が出てくると思う。「授業」として扱うのではなく、私たち生徒が「この時間が好き！」と思えるような「未来をよりよい世界にする

会」として時間をつくってほしい。

私が通っていた小学校では、私が五・六年生のときに1ヶ月、このSDGsを意識してがんばりましょう！という企画があった。とても良い案で、きっと学校のためにもなるからいいなと思っていた。しかし、だんだん忘れてきてしまい、常に意識できなくなっていた。この目標を達成するためには先生が生徒に教えるのではなく、生徒同士で考えを深めていくことが大事だと思う。そして「一週間」と決めれば、短くも長すぎずでもなく、しっかりと身につくと思う。なので私は、この取り組みを行ってほしい。それだけでなく、SDGsの体験場所も造ってほしい。例えば、エコキャップはどのようにしてワクチンになっているのかや、専門家の方に話を聞いて、今後私たちの未来はどうなるかなどを聞ける場をつくってほしい。そこに、中学生・高校生が授業で見学したり、気楽にプライベートで家族や友人と行けるようにしたりして、今の世界の現状を皆さんに知ってもらいたい。

最近、全国ニュースでもよく放送されている訳アリの店がある。それは、食品ロスになる前に安く買える販売店のことだ。賞味期限が切れていたたり、近かったりする商品を格安で買うことができる。そのことにより、お金で苦しんでいる人も、みんなと同じものを食べることができると。私の家の周りには、そういった店がないのでもっと増やし

てほしい。

二〇三〇年までに達成すべき十七の目標、SDGsは残り八年を切った。八年後は、私は二十歳を超えている。そのときには、地球温暖化、環境問題という言葉が世の中で当たり前でない世界になってほしい。だからこそSDGs「持続可能な社会」を実現するために、人事にせず、「私は関係ない」と言う人が世界で誰一人いないように、みんなで取り組んでいきたい。世界中の全ての人が平等に生活できるように、今からでも真剣に考えていきたい。そして世界中で同じ「地球人」として今、私たちができる最大限の取り組みをして世界を救いたい。